

## 佐世保工業高等専門学校の年度計画（令和3年度）

### 1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

#### 1. 1 教育に関する事項

##### (1) 入学者の確保

【教務主事室】、【校長補佐（広報・男女共同参画推進担当）】

- ① 令和2年度は新型コロナウイルスの関係で、十分にできなかったPR活動を、各種の広報用ツールを活用して志願者の質の維持及び志願者確保のため積極的に行い、多くの中学生や保護者に工学（技術者）の重要性や魅力を伝える。また、学習塾協会との連携を継続する。

高評価を得ている「キャンパス大使派遣事業」（在学生を出身中学校へ夏休み等に派遣し、高専の教育内容・生活などを中学生に紹介することにより、科学技術（技術者）の魅力伝える）を継続して行う。

地方紙・TV等のメディアやホームページ・SNSを活用して学校行事、好成績を残したクラブ活動、学生、教員の優れた研究成果、地域連携等の紹介を積極的に行う。

- ② 入学志願者の状況（志願者数、校区等）を解析し、効率的・効果的な中学校訪問を実施する。また、令和元年度まで行っていた、離島を主たる勤務地とする教諭を本校の一日体験入学に招待し、本校の教育内容を知ってもらうことで、参加教諭を通して離島の中学生に本校のPRを行ってもらう事業を再開する（R2年度は新型コロナウイルスの関係で中止）。その際、令和元年度までは3つの離島地区のうち年あたり1地区からの招待だったが、令和3年度は3地区とも招待する。
- ③ 女子中学生を対象としたリーフレットを学校説明会等で紹介し、女子生徒に直接配布するなど、効果的なPRを行う。一日体験入学では、web配信による女子中学生向けの紹介コーナーを設置するなど、効果的なPRを行う。また、地域企業・行政機関・大学等と連携したリケジョセミナー、高専女子学生が高専での学生生活や専門教育、研究に関する紹介を行う高専女子フォーラム等の機会を活用し、女子学生の活躍をホームページ・SNSでPRすることにより、女子の志願者確保に向けた取組みを行う。
- ④ 高専機構が取りまとめている留学生については積極的に受け入れる。また、モンゴル、タイ、ベトナムの高専を含む留学生、教員の受け入れに関して学内体制整備等を検討し進めて行く。ホームページの英語ページを作成する。
- ⑤ 改訂した令和3年度推薦選抜に関して、引き続き推移の解析を行う。また、令和4年度入学者選抜試験から実施予定の「思考力・判断力・表現力」をより重視した入学者選抜学力検査について、中学校に対し十分なアナウンスを行う。

##### (2) 教育課程の編成等

【教務主事室】

- ① 令和2年度から開始された、全学科で情報社会対応エンジニア育成（Society5.0に対応

できる人材育成)を目的とした新カリキュラムを、スムーズに推移させる。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関して、5年生の修了認定を行う。

#### 【専攻科】

- ②・令和5年度からの九州大学工学部融合基礎工学科と第5ブロック高専との連携教育プログラムスタートを目指し、募集要項などの素案を作成する。
  - ・専攻科技術者総合ゼミにおいて、従来から取り組んでいる地域企業等の技術者・経営者・専門家などと連携した共同教育を継続的に実施していく。また地元の企業及び大学との連携協定をもとに共同教育の展開を継続的に行っていく。

#### 【学術交流専門委員会】

- ③ 本校と協定関係にある中国・廈門理工学院とは、引き続き学生の相互派遣を継続的に実施する。JASSOの渡航期間が28日以上に変更されたため、現在2週間の交流プログラムの改定を先方と協議する。また、新たにMOUを締結したタイ・泰日工業大学やNZ・クライストチャーチ工科大学、フィリピン・イロイロ科学技術大学、セントラルフィリピン大学等への学生の留学を推進する。さらに、新たにや米国、カナダの教育機関ともMOU締結を推進し、学生の留学先を開拓する。
- ④ 低学年の基礎英語力を確かなものとするため、グローバルエンジニア基礎力養成プログラムに沿って英検準2級および2級の受験を推奨し、合格者数の大幅増を目指す。成績上位層の学生には、2年次での英検2級合格を推奨し、高校留学水準の早期達成を目指させる。2級取得後は、各自のキャリアデザインに合わせて主としてTOEICを、他の検定試験として英検準1級、TOEFLやIELTS等に達成目標を定めさせ、基礎的な語学力に裏付けされた多様なグローバルマインドを育てる。

#### 【学生主事室】

- ⑤ 「全国高等専門学校体育大会」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」など機構主催のコンテストへの参加を奨励する。
- ⑥ 学生会やインターアクトクラブによる自治活動を活性化し、体育祭・文化祭など各種学校行事の運営や、「花壇に季節の花を植える」、「日宇駅の自転車整理」、「近隣清掃活動」、「新入生オリエンテーション」、「ペットボトルキャップの回収」などの校内外の環境美化・保全、ボランティア活動、地域社会との交流等に、学生たちが積極的かつ主体的に取り組むようにする。

#### 【学術交流専門委員会】

- ⑦ 英検2級や準1級等、留学につながる語学力を身につけさせながら、トビタテ!留学JAPAN等の留学支援制度や本校の海外渡航プログラムを紹介し応募を呼びかける。応募に際しては、外国人教員やクロスアポイント制教員、金融界での実務経験を有する教員等の支援を受けながら、アントレプレナーシップ教育と連携した個性豊かな渡航プログラムの企画を活性化させる。

### (3) 多様かつ優れた教員の確保

【教務主事室】

- ① 専門科目（学科）の教員を公募する際は、博士の学位を明記し公募を行う。
- ② 高専クロスアポイントメント制度により前年度から在籍する 2 名の教員により行われた、起業家育成事業や先端技術をテーマにした卒業研究への取組や、アントレプレナーシップと国際交流、地域連携を相互に結びつける教育支援活動を引き続き展開し、学生へ多様な教育を提供する。

【校長補佐（広報・男女共同参画推進担当）】

- ③ ライフステージの目的に応じた柔軟な勤務時間制度、仕事との両立を支援する同居支援プログラム等の様々な支援制度を気兼ねなく活用できる雰囲気作りを行う。  
また、女性教員にとって働きやすい環境を整えるため、研究支援員配置や Re-Start 研究支援等、女性研究者支援プログラムの実施に向けて周知を行う。

【教務主事室】

- ④ 「グローバルエンジニア基礎力育成プログラム」に採択（令和元年）された外国人教員を中心に、今後も、継続的に申請内容に沿った国際交流、英語力強化等に取り組む。
- ⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図り、国立高等専門学校や両技術科学大学間の教員人事交流についても検討を行う。
- ⑥ 外部講師や各種研修会に参加した教員を講師として、FD 講演会を 4 回以上実施する。  
なお、うち 1 回は、各学科・基幹教育科が実施する「研究授業」を FD として認める。また、機構本部が実施する各種研修会などには積極的に参加する。
- ⑦ 学内教職員表彰制度を引き続き実施する。また、特に優れた成果が認められた教職員は機構本部の表彰対象候補者として積極的に推薦する。

（４）教育の質の向上及び改善

【教務主事室】、【教育システム点検・改善委員会】

- ① 前年度より審議している、機構本部の方針に沿ったディプロマポリシーならびにカリキュラムポリシーの改定を行う。  
教員間の研究授業を実施し、新型コロナウイルス感染症拡大時にも対応できる授業形態構築に取り組む。  
C B T 等を活用することで学生の学習時間、到達度把握に関しての授業の実施手法に関して検討と試行を行う。

【教育システム点検・改善委員会】

- ② 教育の質の向上に努めるための自己点検および評価として、本年度は JABEE の継続受審を実施する。また、評価結果の優れた取り組みや課題・改善点については、学校ホームページで公開することで他高専への共有・展開を図る。

【教務主事室】

- ③ 地場優良企業と連携協定を締結したので、その連携を通して、企業や地域が直面している課題解決を目指した課題解決型学習（PBL）の導入を検討する。
- ④ 地場優良企業と連携協定を締結したので、その連携のなかで、地域企業技術者による授

業実施（各学科 1 回以上/年）の試行や地域企業へのインターンシップの展開など地域密着型の共同教育を展開する。

- ⑤ 平成 30 年度に整備した情報セキュリティ設備を活用し、基幹教育科を含む全学科で、情報セキュリティ教育(実験系も含み)の高度化を行う。
- ⑥ コロナ禍で、テレビ会議システム（Skype、Teams を含む）などの活用が進んだことをふまえ、本年度の利用状況を把握し、活用を推進して行く。

#### (5) 学生支援・生活支援等

##### 【学生相談室】

- ① 3 名の臨床心理士によるカウンセリングを実施する。具体的には、1 名の臨床心理士による月 2 回程度のカウンセリングに加え、2 名による毎週 1～2 回のカウンセリングを実施する。状況に応じて、担任・保護者・学科と連携して対応する。また、問題を抱える学生に対し、細やかな対応を行うため、スクールソーシャルワーカーを雇用する。さらに、外部の専門家の助言・協力・支援を受けながら、特別支援教育部会やケース会議、スキルトレーニングなどを実施し、特別支援教育を推進していく。また、教職員の発達障害、身体障害およびハラスメントへの理解を深めるため、メンタルヘルスや学生相談技法などに関する研修会への積極的な参加を促す。

##### 【学生課生活支援係】

- ② 各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させるため、昨年に引き続き学生課において希望者が適切な情報を取得できるように公募情報を一元化し、ホームページや学生掲示板等で閲覧できるようにするほか、要項を窓口で閲覧できるようにする。

また、昨年 4 月に新設された日本学生支援機構修学支援新制度（給付型奨学金+授業料減免を同時に受給できる制度）について、案内文書の送付やホームページへの掲載等により、学生及び保護者に周知を行い、学生が適切な支援を受けられる体制を整える。

##### 【キャリア教育支援】

- ③・低学年時のキャリア教育に関する取組を継続して実施する。特に地元地域におけるキャリア意識を根付かせるため、低学年における地域企業との連携を積極的に行い、低学年学生への地元企業の情報提供を充実させる。
  - ・同窓会との連携について検討し、現在運用している U ターン I ターン向けの就職支援システムとの情報連携手法を検討する。卒業時にキャリア支援を含めた満足度調査を実施し、就職支援活動を検証する。
  - ・進路情報の WEB を使った情報提供、teams による会社説明会情報の共有、キャリア面談支援を継続して実施し、高い就職率の維持を目指す。

## 1. 2 社会連携に関する事項

### 【校長補佐（研究担当）】

- ①・本校ホームページおよび国立高専研究情報ポータル等を通じて、本校教員の研究分野や

技術シーズ等の情報を外部へ公開・発信する。また、地域共同テクノセンターや西九州テクノコンソーシアムとの連携を深める。

・教員の Research Map を充実させるとともに、これまでの研究成果をまとめ、地域社会への広報に努める。

【地域共同テクノセンター】

- ② 地域共同テクノセンターや産学官連携コーディネーター等を活用し、技術相談会等を通して新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。また、本校の技術振興会である西九州テクノコンソーシアムや長崎県産業振興財団等の産学官連携組織を活用して地域産業界との連携を推進し、技術交流イベント等で成果の情報発信を行いつつ社会還元に努める。

【校長補佐（広報・男女共同参画推進担当）】

- ③ 長崎新聞との包括的連携協力に関する協定の締結を活用し、積極的な情報発信を行う。学内における情報の一元化と、学外に向けた情報発信をスムーズに行うため整備した仕組みを運用し、必要に応じて改善を行いながら積極的な情報発信に取り組む。
- ④ 様々な情報を社会に発信するために、学内における情報の一元化と、学外に向けた情報発信をスムーズに行うため整備した仕組みを運用し、必要に応じて改善を行いながら積極的な情報発信に取り組む。また、報道機関等において報道された内容について、機構本部に随時報告する。

### 1. 3 国際交流等に関する事項

【学術交流専門委員会】

- ① モンゴル高専の求めに耳を傾け、彼らの自立した成長を促すための教育的支援を行う。必要に応じてモンゴルに教員を派遣して現地で研修を行うとともに、教科書執筆等、教育体制確立のための助言を行う。
- ② タイに設置される「KOSEN」に対しては、現地と高専機構からの要請に応じて支援に取り組む。また採択済の JASSO 協定派遣による学生派遣プログラムを、高専機構と連携しつつ国際情勢を見極めながら実施を目指す。
- ③ ベトナムにおける「KOSEN」の導入に対しては、必要に応じて支援に取り組む。
- ④ リエゾンオフィスを設置している国以外への「KOSEN」の導入に対しては、必要に応じて支援に取り組む。
- ⑤ 機構が推進する「KOSEN」の導入支援に係る取組に対しては、必要に応じて一体的に取り組む。
- ⑥ 本校と協定関係にある中国・厦門理工学院とは、引き続き学生の相互派遣を継続的に実施する。JASSO の渡航期間が 28 日以上に変更されたため、現在 2 週間の交流プログラムの改定を先方と協議する。また、新たに MOU を締結したタイ・泰日工業大学や NZ・クライストチャーチ工科大学、フィリピン・イロイロ科学技術大学、セントラルフィリピン大学等への学生の留学を推進する。さらに、新たにや米国、カナダの教育機関とも MOU 締結を推進し、学生の留学先を開拓する。【再掲】
- ⑦ 低学年の基礎英語力を確かなものとするため、グローバルエンジニア基礎力養成プログ

ラムに沿って英検準 2 級および 2 級の受験を推奨し、合格者数の大幅増を目指す。成績上位層の学生には、2 年次での英検 2 級合格を推奨し、高校留学水準の早期達成を目指させる。2 級取得後は、各自のキャリアデザインに合わせて主として TOEIC を、他の検定試験として英検準 1 級、TOEFL や IELTS 等に達成目標を定めさせ、基礎的な語学力に裏付けされた多様なグローバルマインドを育てる。【再掲】

- ⑧ 英検 2 級や準 1 級等、留学につながる語学力を身につけさせながら、トビタテ!留学 JAPAN 等の留学支援制度や本校の海外渡航プログラムを紹介し応募を呼びかける。応募に際しては、外国人教員やクロスアポイント制教員、金融界での実務経験を有する教員等の支援を受けながら、アントレプレナーシップ教育と連携した個性豊かな渡航プログラムの企画を活性化させる。【再掲】

【校長補佐（広報・男女共同参画推進担当）】

- ⑨ 外国人留学生の受入れを推進するため、以下の取組を実施する。
- ・ホームページの英語ページを作成し、高等専門学校教育の特性や魅力について情報発信を行う。
  - ・外国人留学生の受入れや国際学術交流事業に関する内容をまとめ、ホームページ等で情報発信を行う。

【学術交流専門委員会】

- ⑩ 日タイ産業人材育成協カイニシアティブに基づく、1 年次からの留学生の受入を実施している高専や受け入れ準備を進めている高専の状況について情報収集をはかり、受入時の課題を明確にし、受入の可能性について検討する。

【学生課】

- ⑪ 学生が海外研修や外国留学等により国外へ行く際には、海外旅行保険に加入させる他、たびレジへの登録など、文部科学省が定める「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に準じた危機管理措置を講じて、学生の安全面への配慮を行う。
- 外国人留学生について、指導教員と連携を取り、学業成績や資格外活動の把握に努め、必要に応じ該当学生に対し指導を行う。休暇期間においても、インターネットを活用した Web 点呼を適宜行い、留学生の所在と健康状態を適切に管理する。

2. 業務運営の効率化に関する事項

2. 1 一般管理費等の効率化

【総務課財務系】

中期目標の期間中は毎事業年度効率化係数が掛けられているため、昨年度に引き続き、関係部署からの予算要求に対しては十分なヒアリングと説明を行い、教育・研究費への配分とバランスをとりつつ予算配分を行うほか、契約案件の見直し等を始めとして、更なる業務の集約・効率化の検討を行い一般管理費の縮減に努める。

2. 2 契約の適正化

【総務課財務系】

昨年度に引き続き、案件に応じて適切に一般競争入札または随意契約による契約を実施することとする。また、随意契約の見直しを行い、一般競争入札に移行可能な案件については、一般競争入札に移行し、業務の合理化に務める。

### 3. 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

#### 3. 1 外部資金、寄付金その他自己収入の増加

##### 【校長補佐（研究担当）】

- ・外部資金の獲得、特に科学研究費補助金への採択率を向上させる。
- ・学会発表や学術雑誌への投稿を奨励し、研究の進展を図る。
- ・企業等との共同研究、受託研究等を促進するため、技術マッチングイベントへの出展参加を奨励する。
- ・高専全体で連携した研究についても推奨する。

### 4. その他主務省令で定める業務運営に関する事項

#### 4. 1 施設及び設備に関する計画

##### 【施設整備委員会】

- ① 「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」2021（令和3年3月決定）、国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）2021 及び、佐世保高専キャンパスマスタープラン 2020ver1.0 に基づき機構本部の掲げる「共創」の拠点となる「KOSEN コモンズ」への転換を目指すこととし、その実現に向けて施設整備を推進していく。教育研究活動及び施設・設備の老朽化状況の加速化や、図書館、寄宿舍などの学生支援施設について実態やニーズに応じた整備及び施設マネジメントの取組を計画的に推進する。
- ② 施設の非構造部材の耐震化については、避難施設については整備済みであるが他の建物についても引き続き、計画的に対策を推進する。

##### 【学生課・総務課総務系】

- ③ 新入学生（編入学生、留学生を含む）及び新規採用教職員を対象に、平成30年度に学内で改訂した「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講演会に参加する。

##### 【施設整備委員会】

- ④ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用するトイレや更衣室等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備を計画的に推進する。

#### 4. 2 人事に関する計画

##### （1）方針

教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。

##### 【学生主事室】、【寮務主事室】

- ①・学校規模に相応した適正なクラブ数・活動内容の検証を引続き行う。
- ・課外活動に対して、地域社会、保護者等の支援を得て、専門的な指導ができる課外指導員・外部コーチの積極的な導入を継続し、部活動を充実するとともに顧問の負担軽減に努める。
  - ・現在、宿直業務の一部を警備員に外部委託しているが、警備員の代わりに「学寮指導員」の雇用を検討する。また「学寮指導員」は宿直業務と教育業務のどちらもできるため、教員の負担軽減となるように、その業務内容をしっかりと検討する。

**【教務主事室】**

- ② 第4期中期計画期間における人員配置に沿った体制を継続的に実施する。また、人事交流制度を活用し、幹部人材育成に努める。
- ③ 現在実施している准教授枠の下部流用を本年度も、適切に下部流用を実施し、教育システムの充実、教員負担の低減等の検討を継続していく。
- ④ 専門科目（学科）の教員を公募する際は、博士の学位を明記し公募を行う。【再掲】
- ⑤ 高専クロスアポイントメント制度により前年度から在籍する2名の教員により行われた、起業家育成事業や先端技術をテーマにした卒業研究への取組や、アントレプレナーシップと国際交流、地域連携を相互に結びつける教育支援活動を引き続き展開し、学生へ多様な教育を提供する。【再掲】

**【校長補佐（広報・男女共同参画推進担当）】**

- ⑥ ライフステージの目的に応じた柔軟な勤務時間制度、仕事との両立を支援する同居支援プログラム等の様々な支援制度を気兼ねなく活用できる雰囲気作りを行う。
- また、女性教員にとって働きやすい環境を整えるため、研究支援員配置や Re-Start 研究支援等、女性研究者支援プログラムの実施に向けて周知を行う。【再掲】

**【教務主事室】**

- ⑦ 「グローバルエンジニア基礎力育成プログラム」に採択（令和元年）され、外国人教員を採用した。今後も、継続的に申請内容に沿った国際交流、英語力強化等に取り組む。【再掲】

**【校長補佐（広報・男女共同参画推進担当）】**

- ⑧ シンポジウム、研修会、ニューズレターの配付等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。

**【総務課人事係】**

- ⑨ 高専間交流派遣制度、高専クロスアポイントメント制度及び他大学等との人事交流を活用することで、教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、研修機会の充実と積極的な国際学会への参加を促し、資質の向上を推進する。

**(2) 人員に関する指標**

**【総務課人事係】**

- ・常勤職員の業務の効率化を図るため、引き続き検討を行うと共に、高専機構や外部機関が実施する各種研修に積極的に参加させて、資質の向上、職務能力を向上させて、適切な人



員配置に取り組む。

#### 4. 3 情報セキュリティについて

##### 【情報処理センター】

- ・昨今のインシデント傾向を踏まえつつ教職員にわかりやすい内容とした、情報セキュリティ研修会を実施する。
- ・導入・運用を開始した学校公式 SNS の利用ガイドラインの見直しを行い、掲載するコンテンツの質・量を確保するとともに、セキュリティも十分考慮した運用を目指す。
- ・学内ネットワークに接続される情報機器等のシステム台帳の整備を開始する。
- ・学内のネットワークサービス、アプリケーションサービスに関することや、セキュリティに関する注意喚起など、情報処理センターとして情報発信を行うポータルサイトの構築を行う。

#### 4. 4 内部統制の充実・強化

##### 【総務課総務系】

- ① 機構本部作成のコンプライアンス・マニュアルを教職員へ周知徹底する。また、コンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。
- ② リスク管理室を常設するとともに、緊急時は必要に応じて危機対策本部を設置し、機構本部と連携を図り、指導・助言のもと対応する。

##### 【総務課財務系】

- ③ 高専間の相互監査を引続き実施し、不正使用の有無をチェックする。今年度より監査校・被監査校が新たにグループ化される予定であり、監査校・被監査校どちらでも対応できるよう準備し監査を実施する。その際、業者から提出を受けた売上台帳等により期ずれや付け替え、預け金等について監査を実施するほか、会計事務全般について詳細な監査を実施する予定である。
- ④ 公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底については、引き続き「公的研究費の管理・監査ガイドライン」の内容を踏まえ、全教職員に対して実施している公的研究費にかかる学内説明会について、アンケート結果等に基づき内容等を吟味、必要に応じて改善し教職員の意識涵養に資するとともに、各種監査等の結果も踏まえ、公的研究費のガイドラインで求められている体制等について、整備・改善に努める。

##### 【自己点検・評価委員会】【総務課総務系】

- ⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を策定するとともに、年度計画の達成状況を自己点検・評価する。